

平成 29 年度（仮称）磐田市文化会館
設計業務公募型プロポーザル

選定結果報告書

平成 29 年 12 月

（仮称）磐田市文化会館設計業務委託受託者選定委員会



平成29年12月12日

(仮称) 磐田市文化会館設計業務委託受託者選定委員会
委員長 丸田 誠

1. はじめに

磐田市民文化会館は昭和54年に竣工し、市民にとって様々な鑑賞・市民活動の拠点としての役割を担ってきました。しかし、築後37年が経過し、施設の老朽化が進み、部品調達等も困難であることに加え、バリアフリー化や耐震性能への対応が十分ではありません。さらに、駐車場不足は長年の課題です。

そのため、磐田市は、市民文化会館については新たに整備する方針を固めてきました。「磐田市文化会館建設検討委員会」において、(仮称) 磐田市文化会館建設基本構想・(仮称) 磐田市文化会館建設基本計画を策定しました。

これらの経緯を踏まえ、基本構想及び基本計画の目的や意義、機能を十分に理解した上で、豊富な設計業務実績を備え、磐田市に相応しい優れた基本設計を取りまとめることができる設計者を選定するため、公募型プロポーザル方式を実施しました。

(仮称) 磐田市文化会館設計業務委託受託者選定委員会(以下「選定委員会」という。)で提案課題についての技術提案内容について審査を行った結果、3者を候補者として選定しましたので、磐田市に推薦いたします。

選定委員会は技術的な見地からの審査であり、今後、磐田市において総合的に判断し、最終的な受託者を決定するにあたり、選定委員会の意見を考慮し、推薦した3者の中から受託者を決定し、市民に親しまれる文化会館の建設が実現されることを期待いたします。

2. 選定概要

(1) 選定方法

設計者の選定については、公募型プロポーザル方式を採用し、平成29年度(仮称) 磐田市文化会館設計業務公募型プロポーザル実施要領(以下「実施要領」という。)に基づき、参加資格を満たす者を公募により募集した。

審査にあたっては、平成29年度(仮称) 磐田市文化会館設計業務委託受託者選定要領(以下「選定要領」という。)に基づき審査を実施した。

(2) 参加表明者

10者

(3) 一次審査

一次審査では、参加表明者から提出された書類により、企業の評価、配置技術者の資格及び技術力について非公開による書類審査を行った。

この審査の結果、参加表明者10者のうち評価点の低い3者を非選定とし、7者を二次審査に進む者として選定した。

(4) 二次審査

二次審査では、設計に関する基本的な考え方、取組体制及び業務スケジュール、ワークショップの手法等、提案課題についての技術提案内容を評価項目と定め、一次審査で選定された7者から提出を受けた技術提案書等及びプレゼンテーション・ヒアリングの結果を踏まえ、評価点の高い提案者上位2者と、各委員の採点により、第1位を多く獲得した上位2者を選定委員会において技術的な見地から判断した。その結果、3者を候補者として選定し、順位付けをした。

3. 選定結果

選定委員会は、二次にわたる審査を行った結果、技術的な見地から下記のとおり3者を候補者として選定しました。

【審査結果】

順位	提案者名	採点合計	1位獲得数
候補者1	香山壽夫建築研究所株式会社	437	3
候補者2	石本建築事務所 名古屋オフィス株式会社	406	3
候補者3	新居千秋都市建築設計	374	2
—	【提案者番号 ③】	—	—
—	【提案者番号 ⑤】	—	—
—	【提案者番号 ⑥】	—	—
—	【提案者番号 ⑦】	—	—

4. 審査委員会委員の構成（順不同，敬称略）

氏名	所属等
丸田 誠	静岡理工科大学教授（磐田市文化会館設計検討委員会委員）
永井 聡子	静岡文化芸術大学准教授（磐田市文化会館設計検討委員会委員）
佐藤 典子	全日本洋舞協会副会長（磐田市文化会館設計検討委員会委員）
浅羽 信和	㈱ステージループ専務（現文化会館舞台業務委託者）
酒井 宏高	磐田市企画部長
袴田 浩之	磐田市自治市民部長
鈴木 謙一	磐田市建設部建築住宅課長

5. 選定の経過

平成29年 9月21日(木)	プロポーザルの公告
10月 3日(火)	参加表明書等の提出期限
10月 6日(金)	一次審査
11月 7日(火)	技術提案書等の提出期限
11月19日(日)	二次審査
12月12日(火)	選定候補者を答申

6. 講評

(1) 全体講評

各者の取組姿勢や磐田市から出された、提案課題に対する技術提案がありました。土地利用計画の課題については、アミューズ豊田、(仮称)子ども図書館、新造形創造館を含めた文化ゾーンとの連携を踏まえた配置計画等の提案がありました。施設計画の課題については、多目的利用に対応する劇場空間における音響、舞台等の考え方やホール以外の諸室の活用についての提案がありました。どの案も基本構想、基本計画を十分理解した上での提案でありましたが、各者の設計に対するコンセプトにより内容は様々な提案でした。特に上位者については、舞台設計を熟知した計画でありました。

委員の採点基準は個々に違いがあるため、評価点の高さだけでの決定ではなく、各委員の採点により、第1位を多く獲得した者と併せて、技術的な見地から審査を行った結果、実施要領では、最優秀者及び優秀者をそれぞれ1者選定するとしているが、協議の結果、3者を候補者として選定し、順位付けをしました。

選定委員会で定めた3者を選定委員会候補者として磐田市へ提出しますので、市は選定委員会の意見を参考に3者の内から総合的に判断し、受託者を決定することを希望します。

(2) 個別講評

〈優秀者 香山壽夫建築研究所株式会社〉

建設における、課題を洗い出した後、課題に対する解決策の提案を理論だてて、提案されており、設計コンセプトに沿った提案であった。文化ゾーンの北西の位置での建築計画でありスペースの狭い中で極力無駄を省いた施設構成となっており、既存施設との連携及び有効活用を特に重視し、コスト管理についても、検討された計画となっていた。

ホール建設に多くの実績があり、コンパクトでありながら、機能を充たした計画であり、技術力の高さを伺えた。

一方、建設位置がゾーンの北西による平時の南側敷地の使用方法や、防災面については、構造等を含めて更なる検討が求められる。

〈優秀者 石本建築事務所 名古屋オフィス株式会社〉

既存施設との連携を意識した動線の整備を主とした明解な配置計画の提案であった。様々な利用人数の形態に対応した駐車場計画やリハーサル室の小ホールの利用を可能とする計画となっていた。

ホールの円滑な利用を可能とする施設構成はホール建設に対する理解度、設計力が伺えた。

一方、スタジオ等の設置については、使用内容や頻度を想定した更なる検討が求められる。

〈優秀者 新居千秋都市建築設計〉

多くのホール建設等の実績から、音響、舞台の見え方等について優れた提案であった。斬新なデザインでありながら、機能性を損なわない計画となっていた。

一方、諸室の数を含めた施設構成や、意匠を重視した施設造りについて更なる検討が求められる。

〈提案者番号 ③〉

既存施設との連携を意識した賑わい創出を重視した提案であった。斬新なアイデアは独創的であり、意匠性の高い計画となっていた。

一方、諸室の配置を含めた施設構成や、ホール機能の詳細については更なる検討が求められる。

〈提案者番号 ⑤〉

既存施設との連携を考慮しつつ、文化会館単独での賑わい創出が可能な提案であった。市民利用を重視したオープンスペースを活用したやわらかい造りは賑わいの創出を活かせる可能性計画となっていた。

一方、ホール全体の効率的な運営や、文化ゾーン内での調和や駐車場の配置計画等については更なる検討が求められる。

〈提案者番号 ⑥〉

既存施設との連携や、空間を効率的に使用する提案であった。文化ゾーンの北西の位置での建築計画でありスペースの狭い中で建築関連法やホール設計に関して、技術力の高さは伺える計画となっていた。

一方、建設位置がゾーンの北西による平時の南側敷地の使用方法や会館全体の動線や、運営の効率化の観点については更なる検討が求められる。

〈提案者番号 ⑦〉

シンプルで無駄を省いた機能的な造りの提案であった。運営側の事情を理解した動線の考え方等はホール運営を熟知した計画となっていた。

一方、ホールという日常とは少し違う空間の創造や、物理的な表と裏の創造については更なる検討が求められる。